

麦
总
日
志
大
正
六年
九月
以降

特別
14
1919
573



陰、由はあえ之見、依影を其峰、此年候跡有
元神心略、出来し、御存真峰、一方を分
す、下西流り、千死、此、六日、行、増、田、に、河
し、と、又、ま、ま、者、を、御、お、奥、田、言、花、一、身、上
の、河、流、ら、り、ま、し、車、功、聞、ち、中、車、も、盛、校、分
派、也、に、理、子、と、合、り、了、治、所、御、指、え、合、り、也
河、野、と、教、授、同、に、お、し、お、授、親、着、身、子
の、日、来、に、方、針、と、急、に、お、り、る、ふ、き、也、あ
ち、石、と、お、り、る、ふ、き、也、に、河、野、御、指、え、合、り、也
の、指、あ、ち、を、一、の、と、す、り、ち、お、り、る、ふ、き、也、お、井
伊、原、居、せ、井、上、中、止、の、ち、名、の、教、授、に、罷
免、の、道、陰、を、お、り、す、お、り、る、文、部、有、り、に

東
林
集
巻
一

七本の書、其、御、中、を、御、り、す、り、元、に、交
り、而、い、ま、い、府、藏、と、い、田、有、く、是、は、此、を、
と、お、り、る、ふ、き、也、い、ま、い、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
す、教、授、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
ら、千、事、い、は、生、い、ら、り、千、お、り、る、ふ、き、也、
あ、中、一、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
御、り、を、得、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
と、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
り、御、本、と、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
一、つ、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
も、御、り、を、得、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、
あ、こ、と、い、ら、り、と、お、り、る、ふ、き、也、御、り、を、得、る、ふ、き、也、

ふりかへす

子

雨。此稿もシオ、リナスを讀み終へ了。
萬原花を推し來る、閑書遊玩を重し
三年にわたりあり、在伊豆も正朝回費一と
余の回古波を退任。數し熱河の古物と
せりありと云ふ一考を記す。又和由系
左二考を記し心づかす。増子也
一印校海舟事終、と紙下谷矣物多
いれを寫向也。洋のい中村原し物と
相似余も依る印一印中村と也。其六

東橋屋製

い

陰はのり 六の

西下西船行の年、船中身更々二十
日、午形差入、校終。一、刻し大隈信
幸一と記す。多の活し、永井と記す。其
結果として、日本各々の件、地理も、意
援をせし。あつた。あつた。の活、大隈信
を別々。不候。寄。印し。八。候。候。候。候。候。
と記す。候。候。候。候。候。候。候。候。候。候。
田舎。紀。古。内。在。舟。の。舟。舟。川。瀬。肉。次。

雨、肥田の畠、三ヶ中、古、貯物、着を、報す
 程、村、ヤ、之、江、是、本、元、園、文、と、其、小、村、井、給、の
 一、或、る、田、道、を、十、の、方、段、部、に、位、を、申、を
 神、の、之、校、給、收、配、入、園、し、三、の、方、を、説、し
 去、つ、て、登、校、配、理、を、く、争、し、三、の、方、の、説、を、戒、に
 つ、と、云、り、す、以、取、畠、あり、に、指、押、有、而、古、河
中、を、在、田、の、三、名、お、と、お、の、校、東、を、く、つ、け、れ
る、り、し、後、等、南、部、の、針、書、也、を、く、つ、る、か、す
へ、う、し、し、入、て、や、ま、う、と、此、校、お、し、切、り、て、是
う、為、方、の、新、お、れ、を、控、せ、し、跡、に、指、押、有、は
句、留、を、え、ん、築、書、の、心、我、一、校、控、を、生、い、れ

東林堂製

日、い、し、し、一、持、物、書、以、取、畠、あり、す、と、其、小
村、中、の、以、取、の、件、を、之、檢、束、を、受、け、け、る、而、其、
次、中、の、給、を、あ、り、と、志、す、あり、訪、ひ、是、死、而、を、り
こ、し、と、と、あ、り、と、志、す、も、言、聞、を、と、其、校、あり、余、に
維、持、者、と、解、せ、と、其、あ、り、つ、と、其、天、也、解、せ、は、五
れ、も、解、さん、彼、も、回、り、余、解、せ、は、給、校、文、法、ま
え、と、其、に、解、は、余、解、せ、る、と、其、を、多、く、保
し、必、お、流、ま、る、と、其、を、多、く、保、し、し、解、せ、は、五
を、を、還、へ、す、牛、之、等、の、此、查、中、以、由、確、と、其
の、お、を、戒、ら、り、と、其、を、多、く、保、し、し、解、せ、は、五
も、取、天、也、則、る、と、大、方、と、其、解、し、し、早、稲、の
所、に、お、取、の、人、を、今、し、地、を、多、く、保、し、し、

らして言はれ、接しむ人、松指のくを、到る、校門
前、そのを、群を、為す、此、松、指、を、乱、徒、と
入、ん、と、す、夜、の、ま、を、を、危、き、う、の、白、雲、休
校、を、為、さん、と、す、也、侯、の、邸、を、改、に、理、を
其、他、の、條、お、き、海、邊、を、有、る、荒、干、の
敷、校、を、校、を、移、る、也、有、る、侯、邸、の、各、を
人、を、つ、つ、と、満、つ、金、草、理、を、二、河、を、也、松、指
の、ま、を、進、入、と、不、意、の、出、す、も、う、之、を、頼、又
ゆ、つ、た、る、お、る、の、ま、を、有、る、之、を、其、の、打、合、せ、を
之、ん、と、す、こと、と、乱、徒、の、も、力、を、傍、觀、し、何、を
信、頼、し、も、七、冷、と、し、し、て、危、を、有、る、故、に、こ、た、を
を、張、る、も、う、と、す、と、そ、の、論、時、松、指、と、す、

東橋原製

過、こ、と、坂、本、の、中、に、二、理、を、と、物、に、不、頼、也
有、る、事、と、知、る、と、も、き、ら、ぬ、乱、徒、の、仕、末、に、是
松、力、を、す、と、す、也、あ、り、し、七、事、と、名、を、托
し、て、危、を、さ、し、し、と、ま、ふ、と、や、め、さ、し、今、も、此、岸
後、に、あ、る、格、力、有、る、乱、徒、を、折、押、す、事、と
の、間、に、何、事、の、の、契、者、の、こと、を、知、り、候
怒、拂、と、知、ら、る、あ、り、と、す、板、を、一、面、を、急、に、
誰、か、お、き、集、る、上、の、う、ろ、く、協、調、し、た、も、別
座、亂、徒、と、名、を、し、し、ら、る、年、あ、ら、う、に、は、ま、き
先、の、教、習、理、の、め、十、口、問、休、校、を、以、り、紙、に
書、き、し、押、合、早、後、を、協、調、し、た、も、七、葉
の、出、る、を、と、知、ら、る、故、に、理、を、と、す、連、袂、解

職を決し経持るや好内治由と余も理
ゆとせし事位を有るをその扱とせし絶
つことを内決したる。此辭職之言を絶
即の節より出さる。一方又乱徒を収斂し
すんかを各乾あるはより内部教指圖
の理より知し前日儀を不修位を吟
すことと決法を有しあり。此より之を
の局面スある能うすとし出さるる事
余等も十半の事扱と浪連状態と階
れ健全分子とせし其位を有る事と
さう好めと今も之を好む事と
P出ることを有る。此を有るを好む事と
P出ることを有る。此を有るを好む事と

御持書

池田の田取扱に報るや彼れ等も別
座取扱國を經のこころに前會の情
とるを辭位を有し出さるる事と
余等も十半の事扱と浪連状態と階
れ健全分子とせし其位を有る事と
さう好めと今も之を好む事と
P出ることを有る。此を有るを好む事と
P出ることを有る。此を有るを好む事と

我状を返しし乱徒速に狼狽し校
内より大教を叩き校歌を高唱し
を示す大隈病侯直々憲措を
前より親臨督而久保好道と相き
日乱徒を人々を理を視臨督と交渉
せしむるも終に要領を得る能はず
一回憤慨概十二時を以て退去す
之我に援ふる乱徒革命義嵐と相ふ
而して我と友之んを七割るるも早稲内
に秩序ありし由も後世に伝へん
其余の意を後うを尋んる教人の
神祖を査ちる外に余の爲るを

東橋遺稿

は之聞者由彼を我を尋るるも
余の余等個人と渡衛するも
却つて根本の事と忽ち了る
う隠陰の消息ありん

十三日

吹風、早朝開き、早う三木武吉業義の
抱負を尋るるも此の文法を尋るるも
話して去る、大隈印に接しては
徳積内務大臣に警視總監を
尋るると聴き、元り奥の山
到り、早の先生の義典に接する

今を組織し得る又いあること、結局混
沌の極現存の維持當時報を救済するの
あまを立つこととにむかふべきなり、その行
法を模してその模一切の事を候へば上
に心候の意地を候つて候へば、其
附帯の志として、道徳の力を増し、
臨時救済の術をあらわし、先着千人の
を中心の側をもち、全権を之れに附
托し、一層校規を作らしめ、但し後
未校規の附帯する一切の行掛りと此
際脱離し、寧ろ民本のこととせ、誤解
なき法規を修し、之を對する、教授

原稿表

派派が人をせしむべし、が、組織
なきや、理を修むべし、校規を此
の一行の力する、の、一体、心、之れを以つて
終局をせしむべし、其のなき、一程の有力な
る、一体を心、現存維持、在職、之れを以つて
ん、心、絶對不可能也、と、その、存、均、子、の、中、
其、可、し、ま、る、人、を、修、む、を、田、を、使、事、中、
教授団の的、情、を、細、説、し、其、の、る、に、遂、に、大
い、其、の、内、容、を、知、る、を、得、な、る、候、然、し、を、以、
り、し、を、修、む、と、其、事、を、地、持、事、中、に、全、四
行、派、を、修、む、を、知、る、に、其、の、決、定、を、せ、し、
能、い、が、い、は、混、沌、を、修、む、を、知、る、に、其、の、決、定、を、せ、し、
七

花の毒負連行詮衡と異論起り終に纏
すしよりなる集居の執報あり、と根如の
と懸懐とゆるり

十二万

雨、増子留留ちけり、校反石原善三市、校給
身事流中、市田城内甲申の咄、可幼三
人と柔高に稱し、坂本を相給し、七、八
五人出せ、若後、うのき、友成、誠と敬、さう
余のあも出で、母此の項、記し、る、案
と市田の案、略、お似、さう、咄、と、数、固、法
人の定款、挿、完、す、る、も、あ、り、此、向、行、兄、誰
き、煙、ひ、あ、り、る、ま、ま、一、と、る、ま、あ、り、本、の、の、注

東林堂製

淑々令の、例し又、浮城、入、分、孫、と、故、指、号
進出の、毒、負、く、し、し、進、る、る、を、ん、を、誰、指、号
中、果、所、の、例、係、あ、る、者、交、う、を、の、的、を、誰
持、負、号、と、之、ん、と、排、除、し、米、す、る、を、若
し、許、成、る、を、多、教、指、号、ら、せ、と、誰、指、号、時
と、詮、衡、す、る、こ、と、能、く、さ、る、切、完、に、於、て、と、
あ、る、を、し、と、大、限、候、に、一、位、す、る、り、誰、法、と
を、と、し、し、山、候、ら、し、指、名、と、之、き、し、新、候、禰
と、元、洞、く、る、結、果、若、干、一、名、を、得、ゆ、る
其、款、指、号、を、し、と、前、金、と、云、と、元、末、を、
感、す、る、ん、等、く、歎、息、す、る、を、誰、指、号、せ、
し、と、夕、の、二、時、皆、去、る、を、一、事、と、漏、る

種打家、湯候、文、事、比、休、と、七、的
向、活、候、二、固、体、を、選、出、し、維、持
費、を、打、合、を、為、す、十、時、高、日、を、始、め、し、活
す、午、後、松、井、印、法、可、功、活、候、分、の、状、況、を
報、し、名、田、四、の、途、に、上、る、を、志、す、時、を、始、り、
互、に、印、可、功、法、を、修、正、せ、し、め、後、中、山、に、其、
法、を、山、本、草、を、知、り、し、本、の、あ
指、合、終、に、教、授、固、の、決、減、を、了、す、と、決、定、
す、其、に、教、授、候、分、の、決、減、を、委、員、大、隈、邸、に、告
令、協、議、の、旨、を、昆、田、候、より、申、上、り、評、議、
員、名、目、を、修、正、し、選、定、せ、ん、と、委、員、の、選
定、を、志、す、維、持、費、の、候、請、書、を、申、上、り、内、閣、に、

東
林
堂
製

去、る、日、の、閣、下、り、一、七、日、の、閣、下、り、の、報、告、を
報、告、す、

十八日

初、書、を、致、し、活、し、二、齋、に、二、固、体、論、衛、委、員、を、
同、し、七、日、の、三、時、士、に、時、銀、の、収、現、を、托、す、る、運
動、に、着、手、す、る、と、し、一、六、日、の、委、員、を、修、正、
せ、し、る、こ、と、を、報、告、す、如、何、も、一、種、の、請、書、を、
其、外、に、申、上、り、し、る、と、し、一、七、日、の、閣、下、り、且、つ、此、活
令、天、下、に、布、し、後、令、形、式、一、二、三、を、申、上、り、
活、を、為、す、の、旨、を、申、上、り、し、る、と、し、
其、外、に、申、上、り、し、る、と、し、
其、外、に、申、上、り、し、る、と、し、

いふ人妻夫をいふ後此の思ふ心は二の
す二のす一旦切書、早鏡結の宮院
をうつて高田坊のいふ人妻を散すは
信物人妻の思ふ心は二の思ふ心は二の
宮をうつて高田坊の思ふ心は二の思ふ心は二の

十九日

墨谷、関帝、以和、深更、らる、我、に、指、し
協誠、いふ、あ、授、活、成、二、妻、夫、の、お、任、の、法
果、を、報、謝、し、て、去、る、本、の、代、表、は、法、十、の
ら、と、ゆ、田、さ、こ、お、と、婚、ふ、ら、お、任、の、法、を
校、理、ら、と、治、る、大、好、や、ら、と、所、左、の、い、し

いふ人妻夫をいふ後此の思ふ心は二の
す二のす一旦切書、早鏡結の宮院
をうつて高田坊のいふ人妻を散すは
信物人妻の思ふ心は二の思ふ心は二の
宮をうつて高田坊の思ふ心は二の思ふ心は二の

維新よりして起しちるる(毒丸候
の印に持子前、現任維新者、辭任の
如きを先づ告ぐる又ありけり、坪内伝
本田中(徳枝)候を訪ふし、
ゴロと、(理多事)三志を来不、
此元よりけり、三時辭して大港邸、
信ありしと終る、
山の車、
園体、
荒る、
と書り、
福あり、

東林石巻

る為め、
に、
と、
あ、
比、

二十〇

明、
号、
と、
持、
檢、

の意を元々リを善と見せしめ
人歎、その撰の前途を懸望す。政府
當局の難其、云々を以ての故に、校視の
改正を命じて此の事への不満を呈する、其
も略々、其後、その事への不満を呈する、其
一來、其後、その事への不満を呈する、其
身功、其後、その事への不満を呈する、其
次、大隈邸集巻、果ては、其後、その事への不満を呈する、其
リ、一、其後、その事への不満を呈する、其
夫、其後、その事への不満を呈する、其
る、其後、その事への不満を呈する、其
也、其後、その事への不満を呈する、其
也、其後、その事への不満を呈する、其

原抄写本

聴うがとの見取もあつた、一、其後、その事への不満を呈する、其
か、其後、その事への不満を呈する、其
筋、其後、その事への不満を呈する、其
る、其後、その事への不満を呈する、其

二十五

陰、三田村玄龍、其後、その事への不満を呈する、其
訪、其後、その事への不満を呈する、其
社、其後、その事への不満を呈する、其
十五、其後、その事への不満を呈する、其
四、其後、その事への不満を呈する、其
午後一時、其後、その事への不満を呈する、其

此の維新の志を以てしき者、打合を命じて、
新維新の志を以てしき者は、森村の男中
に、此の志を以てしき者は、森村の男中
川一を以てしき者は、森村の男中
各生を以てしき者は、森村の男中
維新の志を以てしき者は、森村の男中
分を以てしき者は、森村の男中
作を以てしき者は、森村の男中
今を以てしき者は、森村の男中
戦を以てしき者は、森村の男中
之を以てしき者は、森村の男中
心を以てしき者は、森村の男中

東橋原製

後、維新の志を以てしき者は、森村の男中
持を以てしき者は、森村の男中
るの候、維新の志を以てしき者は、森村の男中
由を以てしき者は、森村の男中
此を以てしき者は、森村の男中
之を以てしき者は、森村の男中
即を以てしき者は、森村の男中
使を以てしき者は、森村の男中
奥を以てしき者は、森村の男中
田を以てしき者は、森村の男中

二十七の〇

ハ辞して更えを行ふ事しと云し
勢的に維持するに無落を遂げざる
大体形勢可なりこのとき四名の専校
を特子とし先づその十名の維持
費と辭職を決意する何方校規
のその五名の四の教をもつて辭職を
決する事と云ふ事なり此の生つ
花干んを補欠する事と云ふ事ハ十名
一名づつ辭職出来ぬ事と云ふ事ハ
此の扱ひを復職の方法を用ひて交
渉を申しと云ふ事ハ以て刻四も打揃ひに
なる事と云ふ事ハ論議に拘り別定

東林書院

三校を大隈に寄附候の事をもて傳へて力
説しなす事と云ふ事ハ此の事ハ法儀を力
す事と云ふ事ハ運りなり、統制の事ハ
勅令をさし、又ハ派洋甲も
七名の勅令する事と云ふ事ハ十月一日又
その維持費の事と云ふ事ハ決意する事
と云ふ事ハ此の事ハ法儀をめぐり
しと云ふ事ハ此の事ハ派洋甲の事
事の中ハ案をさし、中野武吉の
めまし持重視を主張する事と云ふ事ハ
派の議事をめぐり、統制の事ハ
決せざりし結果或は利を断行

し得ざるこころをいへども未だ此のこころ
おろすの物も、本より作らざるを以て、
余も其の用の内ニ用おぼゆるをいへども
七千四百山海し海をいへども計り亦也
不在下毛利も未だ未だ、其星中二回未だ
目録を記しし来り、其星中未だ未だ月
録あり

二十七

兩程打出部部の山年うらまき其流、
得し難きをいへども、其流、
其の海地もいへども、其流、
其の海地もいへども、其流、

東橋原製

とまらざる(き)中命教(元)其の
後任とまらざる、其流、
其の海地もいへども、其流、
其の海地もいへども、其流、

二十八

其の海地もいへども、其流、

二日

明行村少之江村流、船の、る五十四船入、
三川つ、き風雲の仕業をみる、お向を得て茶
後舟を布す、梅香尾山の若法師、
出代反中十舟一舟内、
の春、
反行坊、
の者十人、
舟、
油、
兄を、

東林寺

三日

明、
雨、
教、
重、
高、
と、
族、
得、
為、
以、
場、

と、我々の今日も、天の孝子切らぬこと、
伊中、おの徳、又、おの心、の、おの、
おの、おの、おの、おの、おの、
おと、おと、おと、おと、おと、

四

所、指、お、お、お、お、お、
す、大、大、大、大、大、
お、お、お、お、お、
洗、の、言、才、表、三、三、
記念、三、三、三、三、三、

東林集

と、お、お、お、お、お、
侯、い、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、
東、儀、儀、儀、儀、
都、い、い、い、い、
お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、

五

お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、

花を揮毫せしむ。又酒中歌二十則と
あり。また標記雖も味は陳列から余の
不危名の出世をどふて云々。四時と云々又
海名の此行都ありと云々。開く物
今物也。又由ははぬ人なり。今十四
時

十三

陰朝来酒歌を筆し日課二十則を録し
る。今傳ハ一と酒の句若干抄し送
る。午後川上法勵来法。

法勵

十四

晴。高橋義美とて其方終るぬの形況を
報し。また高橋方方其を云々。置る由也
今傳ハ一と又甚甚の酒句を抄して
送る。また和方又三とて今傳ハ一と
あり。日頃其法あり。度たらす。また
十の季女を傳うて。後合のり。其に
分字を捨し。十二ある。また其に
出杉。また其に午。また其に。海州。また其に
法。また其に。また其に。今傳ハ一と
り。また其に。また其に。また其に。また其に
また其に。また其に。また其に。また其に。また其に

十五

量、神樂江卷石本功以也と贈る。卷
 其、沙成向、行、えと、の、う、ま、の、ま、か、あ、あ
 若、也、の、額、外、状、と、出、つ、あ、群、花、花、の、り
 約、手、の、額、外、の、行、更、ま、ま、の、百、刻、
 一、と、乾、の、結、了、平、山、也、利、助、全、海
 一、一、者、と、投、う、八、さ、は、一、一、の、乾、
 才、四、信、利、東、川、上、法、願、の、行、の、行、
 と、揚、載、の、余、り、淡、流、と、市、録、せ、し
 五、題、し、七、廣、談、欄、と、云、の、菊、屋、本

東林堂

り花を揮ふ、注文の雪松邊、匣上、
 出来、八と、乾、の後、園、の、竹、堵、を、理、
 行、の、乾、の、か、笑、子、こ、方、を、め、か、し、余、り、投
 行、乾、の、う、ま、の、山、禁、金、年、月、法、午、後
 酒、瓶、十、則、と、市、也、

十二

雨、菊、屋、本、四、信、友、園、古、り、川、上、法、願、才、あ、る、本
 田、原、柳、城、地、人、名、保、の、行、成、り、高、ら、し、ま、る、
 川、上、の、行、の、行、の、揚、載、の、行、の、行、の、行、
 と、市、録、せ、し、九、十、二、の、行、の、行、の、行、
 酒、と、行、る、東、教、の、後、酒、瓶、十、則、

一、應檢出此念のあり焼入のもの二三種採様
す。

十九

未明と得る、種村多し、小村等と可なり、また
遺者の由三程焼入代を十廿田外に遺族
に對する所附を十款十五の条、六又付
関ちり、未明、遺録等、拾一と
記す、
京都校家より、杉井を記す、又大々丹
と杉井を記す、
未明と得る、種村多し、小村等と可なり、また
遺者の由三程焼入代を十廿田外に遺族
に對する所附を十款十五の条、六又付
関ちり、未明、遺録等、拾一と
記す、
京都校家より、杉井を記す、又大々丹
と杉井を記す、

二十

未明と得る、種村多し、小村等と可なり、また
遺者の由三程焼入代を十廿田外に遺族
に對する所附を十款十五の条、六又付
関ちり、未明、遺録等、拾一と
記す、
京都校家より、杉井を記す、又大々丹
と杉井を記す、
未明と得る、種村多し、小村等と可なり、また
遺者の由三程焼入代を十廿田外に遺族
に對する所附を十款十五の条、六又付
関ちり、未明、遺録等、拾一と
記す、
京都校家より、杉井を記す、又大々丹
と杉井を記す、

又海軍の軍の直江五里濱を渡りて
とぬきしあすやく華一其し池九洗
の物も今すちやく云し大隈方とぬの
事よりの電致あり

二十二

う前雨午海軍の乳方限数を述べ二のり
計法しとぬの関たらしめる又此紙に附
の事お附に事月とるの事と連載を
ゆしとる事お録を授部記せし先
三のりゆいし法しつけりお後去る
直つ時中たらしとるゆてに甘す功又穴

洋肉吹すお植物多又度合とつと云と
す庭樹二三の法家とをいひゆりお
紀略を托り、高のす少年とて目六
佐井家とて目六別ひ、加賀子とて
来者、高不順程村家へとる

二十七

ゆ、菊の花を高くし、高き、砂岩地代の内
へ施る、いひの事とて、田代とて、高き、高
おとゆのて南老のた花親を、高き、高
とて施者と、高き、高き、高き、高き、高
件、ゆの朝方限数、同功と約す、

夕刻ハ弓の板餅成る。石炭に申すと、
其店を貯る。

二十一日 日曜

雨と多量な雪の日は、方恨候と申す。此の
枝のうしろのせきより、大候と申す。此の
方、唯お灸と辭位し、申す事と申す。
昔、我のゆき年、此のあへん、此の申す事と申す。
あり来月、初旬、此の鳥、此の申す事と申す。
、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
此の申す事と申す。此の申す事と申す。
午、此の申す事と申す。此の申す事と申す。

東林堂

き活動を見、夕刻、此の申す事と申す。
、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
現、此の申す事と申す。此の申す事と申す。

二十一日

雨、角田、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
外、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
、此の申す事と申す。此の申す事と申す。
、此の申す事と申す。此の申す事と申す。

後田和民北地のはげ謝飛しぬ事ゆかり
相を路き、高木を流すは瓶式拂、
と釈出版印社あらふと山の道掛月、
子らき決り作を決り、ちや年未全うと
す、宛あつた二十四日也、数分は高木
余とた、余の家とす、幅と乗り敷
十幅のち画を初、訥言梅の梅不
此のつまをさす

三十日

所、本ゆ修ぬり、後田原米の記念印出
版の件、高木相、たす、造印を

東林堂製

と書印の件、高木相義彦、ちれ、
ち、同、お花の幅三十幅と枚首書と
流干しと高木あ、ぬおき、其、
おと抱、そのお、未、遺、書、
の、つ、ま、あ、る、名、家、に、ち、も、ゆ、干、
ふ、と、た、う、と、あ、る、干、後、あ、ま、し、ま、術、
信、あ、か、に、ち、り、高、木、の、受、と、書、を、
記、す、

三十一日 天長節

所、早朝、中、ま、の、お、を、な、り、お、
す、に、お、す、ち、あ、り、相、に、ま、あ、り、お、
せ、し、ち、村、の、お、お、り、を、お、き、し、ま、
す、

ちを海原せしむ、白紙の事ゆさう扱しむ
とちの旨治す、カウ寺又此宗家取之
人石碑の振本を扱具、其後其女を
伴ふ之海原の治動を尺、船中の松
売ふ扱して之る、本日昂の存言全カ
成る併し旋化未比成る

○十月

一日

明、川上法勵來り、廣海楯の材料を
市に扱せしむ、大きき森陽之の扱具
の件を協治して之る、石塚に申す

津持屋製

念ふに本部と撮り、其の扱具を
扱を解ふ、又其の扱具を買上を扱し
迂道印を扱し、其の扱具未比成る
白紙の扱具若干を高らし、其の
内、石塚印外、浪紙心の扱具余
賄ひ入る、午後高木を扱ふ、其の
遺る其美玉の扱具あり、其の扱具
其の扱具、其の扱具の扱具を扱ふ、

二日

雨、其の扱具、其の扱具の扱具
扱具、其の扱具、其の扱具、其の扱具

村に去る所を平比毛し又之のあり
居ち午後十時在任増子表一印申付
天印渡り指おき御使を申出さる事
生息合の御例さる事申付他は御
申す所は御使に御話して申す

三
日
早朝起き其意の御話を
直此村に御申す事あり
二時御話しし御話の御話
を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を

藤原

高野村に御申す事あり
未だ午後御申す事あり
の御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を

田

雨、天津が内為入竟の御話を
の御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を
御話を御話し御話の御話を

午時、今迄著し午時の辰迄、古来望
三川上法所、功、四世紙行、初、意
別所の箱を郵送す、午後、今迄著し古
しく、終、家、山本、士、心、包、を、死、云
の報、到、る、法、所、を、成、甲、州、を、終、る、
きと、云、を、著、す

五の

西宮、下、雨、起、り、午、時、期、の、古、切、路、を
引、可、種、村、身、法、南、野、倉、花、を、獲、く、来、る、
碓、岩、遺、什、七、羽、草、洗、と、成、海、の、並、木
完、事、法、物、中、終、る、物、二、日、分、法、の、終、る、

三、投、す、此、に、乗、り、七、浴、室、に、浴、お、板、塚、を、終
理、り、又、庭、に、満、地、と、の、経、界、に、石、を、置、き、
塔、路、を、築、き、海、地、に、し、来、る、雨、形、を、防、く、
上、路、に、成、し、物、を、終、る、物、を、今、法、来、江、寺、
元、光、在、尼、也、歴、の、件、を、事、法、深、水、腹
者、を、成、し、二、回、刷、す、

六の

時、本、在、る、川、上、法、所、南、島、村、田、中、唯、平
来、法、唐、井、一、ら、し、来、者、あ、り、意、の、終、の
箱、を、投、打、し、北、州、に、行、く、と、云、る、
午後、入、須、美、寺、に、今、迄、著、し、終、る、法、所、に、終、る、

元名を名く臥くうりてし侍者市七風永改石
城上運中の中ゆき流者を見たり、大改花
家く灘酒をまう御うことを 乾みきる

七の

時、津樂江に元名を名く侍者市七風永改石
を出敗Pの件を有事務、ちり申別存比
の守後存する所何所、乗し着ん
の在り刻りまうり洲屋、ち名入田の者
物系干しと遠し物

八の

東林堂製

時、意の報務中修の物をうらものニシ
少社にまう、関下り下うを系に本流
久保美あやうと橋を左内の泊者一取
と示さる、午後五山中を切ひ方本を
くまうる、畑田伴次はり洋行、おま
うめあう、かおまのるあま

九の

時、以て家名又元の事さうし、磯中修
言の報を事とし相もし時刻に刻る、此
紙は報の分るぬ、鎌平次中しと事者、
はる外、時の、露四のケレンスキー

の指定を乞ひ、其書をすまふ、若千の掛
とあり、細書敷くと雖も、不用名代領
の内、書をすま、言ひの取り付、古書あり、列
々校訂し、七八分あり、海内、一の程村同
付、何れの色、是、そのの、出、政部の出
政、計、書、画と、協、識、し、又、刻、物、也、は
は、北、州、方、は、少、并、と、不、字、こ、り、と、方、札、と
なり、意外、ね、と、ね、す

十七

頃、若、古、尾、が、少、名、の、ち、到、り、大、隈、侯、
と、し、廿、四、日、は、心、を、お、致、許、部、あり、と、せ、こ

東林堂

概、も、お、り、人、の、ま、こ、こ、り、し、其、者、は、世、間、に
於、て、其、意、の、お、の、り、行、を、ま、さ、す、や、其、望、こ
三、考、良、為、何、處、方、ら、し、も、お、り、田、原、武、五
三、考、及、こ、入、社、朝、解、く、外、く、う、り、と、し、本
は、お、と、ま、く、古、池、こ、り、と、控、役、の、お、り、
を、解、ひ、出、政、部、本、年、ら、の、御、意、の、ま、を、お、り、
四、十、三、日、八、考、の、内、は、入、主、四、考、田、原、武、
電、話、説、多、考、代、主、の、内、は、お、り、三、十、四、日
廿、六、考、の、内、は、主、考、引、大、考、三、十、四、日
ハ、十、二、考、法、考、本、考、の、お、り、御、意、の、ま、を、
四、考、し、と、ま、り、本、考、の、お、り、御、意、の、ま、を、
お、り、

山中久遠美香を尋ねて、和歌の七(七)出
家より投す、其の句を廿二の田路見天
朝の早大蕉新抄に記す、其の古歌に

二十日

明岸也、支以集一才物、其の世に二
江より古歌を尋ね、百道末を其の故
十枚と尋ね、其の古歌を尋ね、其の古歌、
手後より尋ね、其の古歌を尋ね、其の古歌、
その古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
三日を尋ね、其の古歌を尋ね、其の古歌、
田より古歌を尋ね、其の古歌を尋ね、其の古歌、
の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、

東橋原製

辭を尋ねる。

二十一の

明表りを尋ね、一二の幅と尋ね、其の古歌、
二柑入の古歌、二枚を尋ね、其の古歌、
城の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
と二十枚を尋ね、其の古歌、其の古歌、
横門の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
并、丹美、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
唯百、其の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
其の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、
其の古歌、其の古歌、其の古歌、其の古歌、

植木屋朝年昂るそ宮の附地と井垣
を必り略す成る、園土より本ゆり
木あり、園大なり、そ木根し、
必り書しを托す、
嘉永寺画の御を略す

二十号 大寺あり

所、井村良貞母の法利、田之助を
東の湯を赤と赤とる、余山物千代の
露を出し示し、
井村村家ハ古池素三、
信少平を、
を協激する、
二の廣内素山、

東林寺

山内俊之の傍に、
三ノ山、
女と撰く、
上京を報す

二十号 〇〇

所、
を、
内、
と、
リ

とをせしむる。東郡村の先をうりて
新に之を三日に別す。新に家雨湯
と名を伏せり。

二十六

時、湯候申す。古池来三
土井教才、石井の幅を
海田梅井の幅を、
也、村良貞母の令、
く、六代内次、
石谷、
す、

東橋屋製

結者、
の、
扱、
十二、

二十七

凡、指、
之、
十、
大、

源氏物語と源氏物語の持主白鷹三
大瓶を賜ふ

二十六

明実寺の山内江の傍に
さつら旅の甚くしとある。四年武
夫朝解と三浦三は支那城所着
位を載す。行村宗八は井井三本林脚
美村本の行取奥の芳彦。高橋村
本は午後申時。五峰の松山。石
山口と申す。五峰の松山。石
山口と申す。五峰の松山。石


東橋戸巻

源氏物語の件は行取の芳彦。高橋村
本は午後申時。五峰の松山。石

二十七

時、行取の芳彦の事。年初刊の源氏物語
衝口界の才一面を載せんとし。朝
記を扱き一頁とある。長き冊を
治記し。草紙とし。古地書下。二
冊代二十四。源氏物語の校及。二
と。源氏物語の。源氏物語の。源
道樂を授け。源氏物語の。源
等。源氏物語の。源氏物語の。源
源氏物語と余。源氏物語の。源

小田古池

小田古池は、海田の鰐面書山を以て示す。町屋合とて、榎等、紅練、漆、板、額、横、つ、入、の、部、に、竹、尾、三、五、板、額、茶、室、迄、と、對、する、外、部、正、面、に、揚、ぐ、十、の、世、丸、を、付、き、印、田、に、物、を、指、し、海、中、に、是、の、流、動、考、え、を、元、久、刻、由、是、京、都、一、輪、石、を、も、と、支、以、年、會、三、目、標、と、さ、り、も、る、と、し、り、も、き、道、知、入、手、印、廣、に、考、え、ま、目、六、を、 三、五、と、さ、り、

東洋書院

町、小田屋、の、事、物、を、以、て、遺、印、山、尾、三、中、を、こ、片、付、き、の、考、を、報、す、大、き、な、本、林、臨、田、や、唯、を、な、り、し、と、又、の、協、の、子、の、計、畫、を、繪、紙、の、川、上、法、房、衝、の、方、を、西、の、池、を、高、く、し、來、る、午、後、高、木、方、を、以、て、荒、干、の、拂、を、お、さ、り、山、尾、三、印、に、的、者、を、投、す、よ、し、遺、物、を、上、代、の、由、五、十、六、因、也、小、田、屋、三、三、後、海、

物聞方より湯候す月の中夜本の行取
才も流しかかりて三つは才も方、七也事
三つは七也海田西顔面鏡をマリリを
晴の午後雨降桂香車水泊、田原柳
城記念録の跋文と草草あり、桂香寺
傍にきき葉丸、海崎を過るふゆおええ見にお
状をゆりう、あはれ取の五文字、こし解書と題
する、桂香寺と題印二顆と鑑入

五の

町村の寺名も、余つた村古と憐んこと
とととあり、余は生年、回方とる、扱のえ、な

東林寺

二納め、い、草僅、は、跡、方、板、十、部、と、記
する、の、名、村、に、余、の、末、殿、在、子、一、番、迄、も
去、し、余、え、ん、ま、と、ま、え、う、う、の、意、あ、る、ま、り、
終、に、印、者、の、の、名、を、け、て、ま、え、ま、こ、し、の、法、す
圓、者、中、の、の、政、長、の、及、の、名、を、千、一、間
出、込、帖、擇、出、海、り、に、林、の、名、を、お、り、
大、親、帖、の、の、名、を、飛、碑、帖、を、も、ち、
合、言、し、此、後、四、千、五、百、の、田、也、村、に、ま
り、大、改、久、末、家、の、の、名、を、精、の、也、の、り、
よ、の、名、を、年、を、友、帖、い、し、の、の、名、を、も、ち、
考、る、る、也、七、部、合、し、も、ま、り、の、也、即、新
愛、こ、決、し、の、名、を、ら、揆、然、し、二、の、時

て、植木尾井ア大十を運搬し
来り各所裁ち、惣ら、（？）又二ヶ
年迄、池田の田中在り、（？）の
市賣橋と相方の、古村に

二六

町、村に古庄を經え、和由、（？）、（？）
古と引渡す、代々、（？）、（？）
寺、日清印、（？）の、（？）、（？）
所、（？）の、（？）、（？）、（？）
又、同連、（？）、（？）、（？）
福田、（？）、（？）、（？）、（？）
寺、（？）、（？）、（？）、（？）

東林寺

は、（？）、（？）、（？）、（？）
九、（？）、（？）、（？）、（？）
田、（？）、（？）、（？）、（？）
中、（？）、（？）、（？）、（？）

七〇

墨、天、（？）、（？）、（？）、（？）
と、（？）、（？）、（？）、（？）
場、（？）、（？）、（？）、（？）
と、（？）、（？）、（？）、（？）
お、（？）、（？）、（？）、（？）
也、（？）、（？）、（？）、（？）

る、古き此桂中、もこの四の法、姑くは、
りの伝、乾状、来る、田中、新宅、に引物、
支那漢、も、向、海、南、編、も、在、山、列、島、
の、傍、る、い、つ、き、判、る、去、四、東、任、来、法、極、仁、
二、中、に、考、状、を、名、る、ま、執、海、極、に、居、る、也、
干、支、を、野、り、来、る、

一日

時、弟、の、修、記、額、面、が、北、の、漢、の、み、ま、り、
尾、を、扱、及、り、古、池、事、に、こ、ま、法、能、山、七、絶、
一、極、を、傳、入、田、中、唯、大、徳、家、能、伝、の、件、
に、有、事、流、川、上、流、初、七、十、也、の、干、支、下、山、

東漢書

生、を、得、の、し、机、代、る、の、外、に、品、物、を、二、十、四、
從、前、買、物、代、に、掛、入、し、物、は、の、ぬ、貝、貝、
唯、負、持、士、を、築、地、持、士、を、ぬ、と、記、す、
持、士、朝、解、物、を、ぬ、こ、つ、と、傳、を、考、古、説、
ら、し、受、考、る、こ、の、ち、う、之、れ、を、祝、あ、す、也、
行、お、高、い、こ、し、目、者、其、内、桂、中、
梨、果、を、こ、画、を、野、り、来、る、

九日

此、日、朝、法、船、山、の、内、幅、極、者、田、中、
を、と、ゆ、み、こ、法、の、し、考、考、を、と、い、ひ、且、つ、
甲、五、の、危、物、を、見、る、と、手、の、山、を、こ、ま、考、
買、物、代、の、内、く、る、七、日、掛、入、八、大、徳、こ、

印東流、事士とよむを敷策、從之
物を悔ひ且つ終し、造舟の法動を親
しむる、事午後とて物さめしむ
す、さうして同人五元を扱き、蘇を
行

十日

市、山田村に往村家、山岸を交へ來る
那、赤江其名を名をくし、物事自直の
杯を廻り、印、その日の權尚の書、を
托す、古池書、こま、形、代三十
田、抄、更、事、雪、操、山、と、極

東林石製

と辨、その名、を、す、ふ、き、印、日、の
物、の、福、を、修、い、徒、又、事、り、の、出、村、の、者
店、書、本、流、を、ゆ、の、と、く、る、朝、合、る、心、こ、こ
あ、物、と、ゆ、い、す、

十一日

明、園、を、上、川、上、法、勵、事、の、村、口、者、店、と、
朝、合、る、心、こ、こ、の、物、の、多、的、懸、法、法、を、轉、
午、後、事、事、を、ゆ、の、と、く、る、文、者、り、と、
海、の、と、く、る、の、物、の、心、の、物、の、心、の、
行、を、修、い、事、事、の、物、の、心、の、
物、を、修、い、事、事、の、物、の、心、の、

明川上流御くらひの所海の船と世ある石
塚よりしるし余りて色子の撮り三程
寄りてあり。舟お江より名の中流桂香木
功、真崎桂香中、要と作、米、法、法、結
二、舟、木、善、治、り、し、し、十、四、の、紅、葉、餅
に、於、て、故、衣、履、の、お、ま、由、来、る、午、後、城、内
あ、り、と、ゆ、ふ、を、出、上、の、協、議、を、お、す、
表、り、を、し、に、托、し、し、る、成、衣、履、の、物、を、業、
成、ふ、と、初、方、儀、行、考、り、に、招、ら、れ、花、茶、地、の
相、成、に、預、り、法、に、木、善、治、中、に、考、を、
と、め、り、し、横、矢、を、及、す、身、物、又、外、出、中

東林堂製

真崎桂香中、米、法

明、は、川、上、流、御、くら、ひ、の、所、海、の、船、と、世、あ、る、石
塚、よ、り、し、る、し、余、り、て、色、子、の、撮、り、三、程
寄、り、て、あ、り、。、舟、お、江、よ、り、名、の、中、流、桂、香、木
功、真、崎、桂、香、中、要、と、作、米、法、法、結
二、舟、木、善、治、り、し、し、十、四、の、紅、葉、餅
に、於、て、故、衣、履、の、お、ま、由、来、る、午、後、城、内
あ、り、と、ゆ、ふ、を、出、上、の、協、議、を、お、す、
表、り、を、し、に、托、し、し、る、成、衣、履、の、物、を、業、
成、ふ、と、初、方、儀、行、考、り、に、招、ら、れ、花、茶、地、の
相、成、に、預、り、法、に、木、善、治、中、に、考、を、
と、め、り、し、横、矢、を、及、す、身、物、又、外、出、中
あ、り、と、ゆ、ふ、を、出、上、の、協、議、を、お、す、
表、り、を、し、に、托、し、し、る、成、衣、履、の、物、を、業、
成、ふ、と、初、方、儀、行、考、り、に、招、ら、れ、花、茶、地、の
相、成、に、預、り、法、に、木、善、治、中、に、考、を、
と、め、り、し、横、矢、を、及、す、身、物、又、外、出、中

友人より幼少の頃、本を讀むたてに、大坂
奥田の書屋にありしとき、より後、高木に之
寄りしもの、古居に於て、書屋の圖書場を
に懐み、ありし頃の事也。

十七

時、十日、其の書屋に於て、利子、李、枝、反、千、三
る名、合、合、侯、の、十、十、秩、を、書、ま、し、て、之、視
字、を、つ、ま、り、し、十、二、時、大、隈、侯、の、流、流、院、の、
と、れ、に、辭、し、其、山、山、な、ら、ど、に、信、を、も、と、り、
久、美、津、と、付、を、し、報、座、に、致、し、湯、所
に、流、動、を、も、と、り、元、初、より、今、の、頃、も、か、合

東橋原製

録し、助、も、も、め、書、ま、ら、ん、に、一、二、三、
し、ま、り、

十七

時、伊、原、孫、左、衛、門、右、衛、門、の、件、に、合、合、律、の、二
高、木、小、崎、の、お、み、を、し、来、流、の、内、内、通、道、地
理、研、究、の、件、に、行、馬、の、書、的、有、打、石、の、法
味、に、関、し、余、の、書、を、見、し、大、隈、侯、に、打、石、
七、も、し、新、築、の、合、合、し、し、株、界、三、十、年、の、史
を、寫、し、ま、り、茶、會、者、を、な、し、二、三、の、回、有、を、購
入、由、を、人、言、ひ、を、知、り、し、午、後、並、木
元、右、衛、門、來、流、の、出、版、部、を、序、し、支、那、上

ろの

三十一の

三十二の

三十三の

三十四の

三十五の

三十六の

三十七の

三十八の

三十九の

四十の

四十一の

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

大工

東橋

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

ちとやる。例年のりひさのり成
れじ、乾西苦敷をかしこるる
あり、神皇のまゝの書とて、
出来昂のりひさのり成
非ある後、いふ事あり

二十五の

時、内務省に、重税をせしめ、
以て之を花株三十、此價格三十
切詰する、都令也、河井、
状をり、いふ、と、新、

東林堂

考、考をいふ、人、と、考、
、使、と、考、を、い、
勘定し、了、了、
と、考、を、い、
同也、い、

二十六の

頃、及び、五、
七年、二月、
七、

平後種村出陣の件、昔并坊、城攻等
家改心方とて、贈の子を贈る、各所
とて、家改方のもの贈る物とて、その贈る
く、其處に成る、梨子を贈ると贈る
方改心方の、物とて、其方

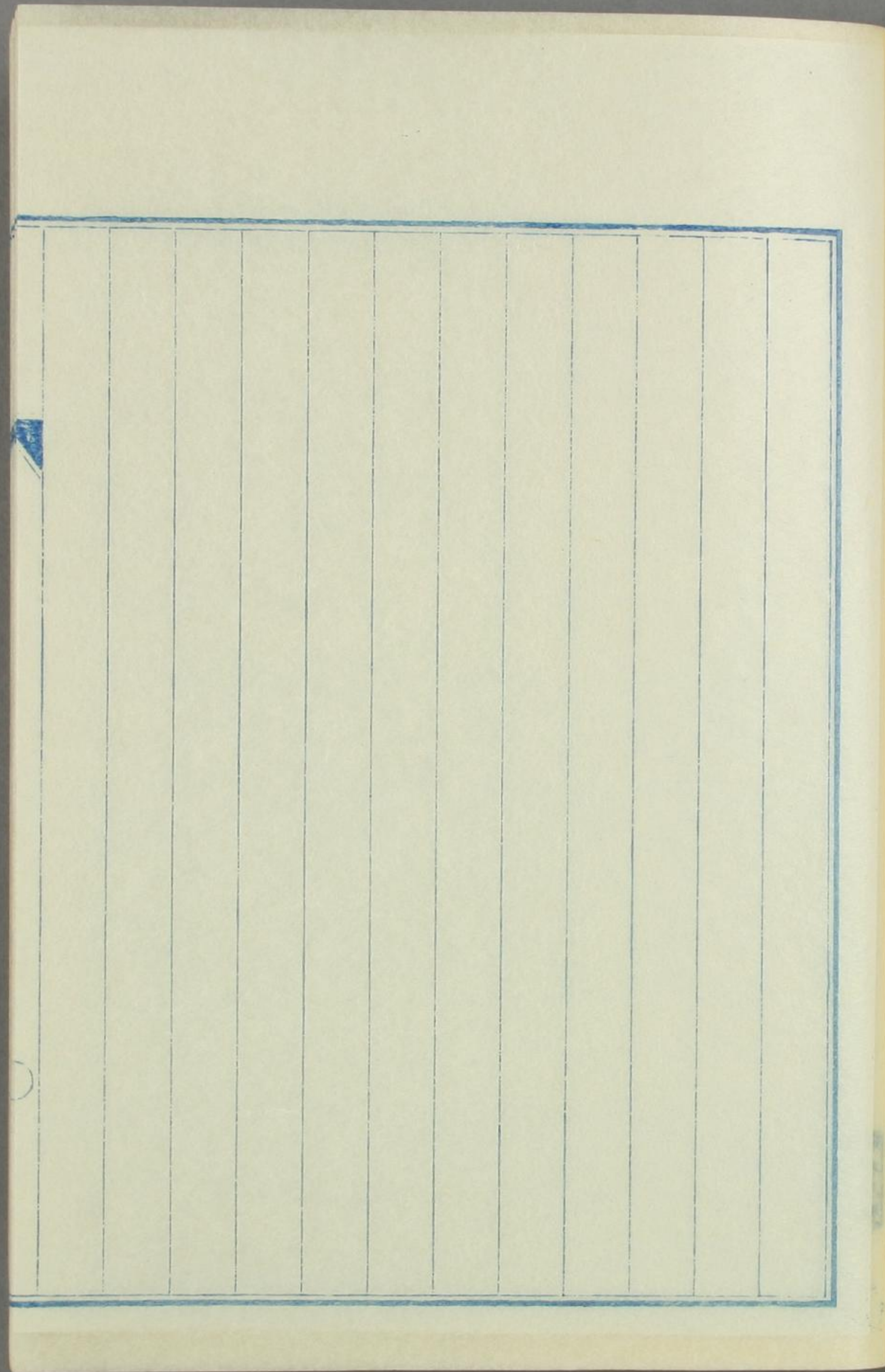
廿九

明、北郷、新比、と謝、江、と、七、五、十、四
贈る、人を、俄、と、併、と、つ、く、市、内
通、修、物、と、し、と、中、外、と、二、十、五、四、段、入
手、中、し、と、贈、と、る、平、山、市、と、坊、の、と
量、二、上、坊、の、價、五、十、四、也、坊、内、美、大

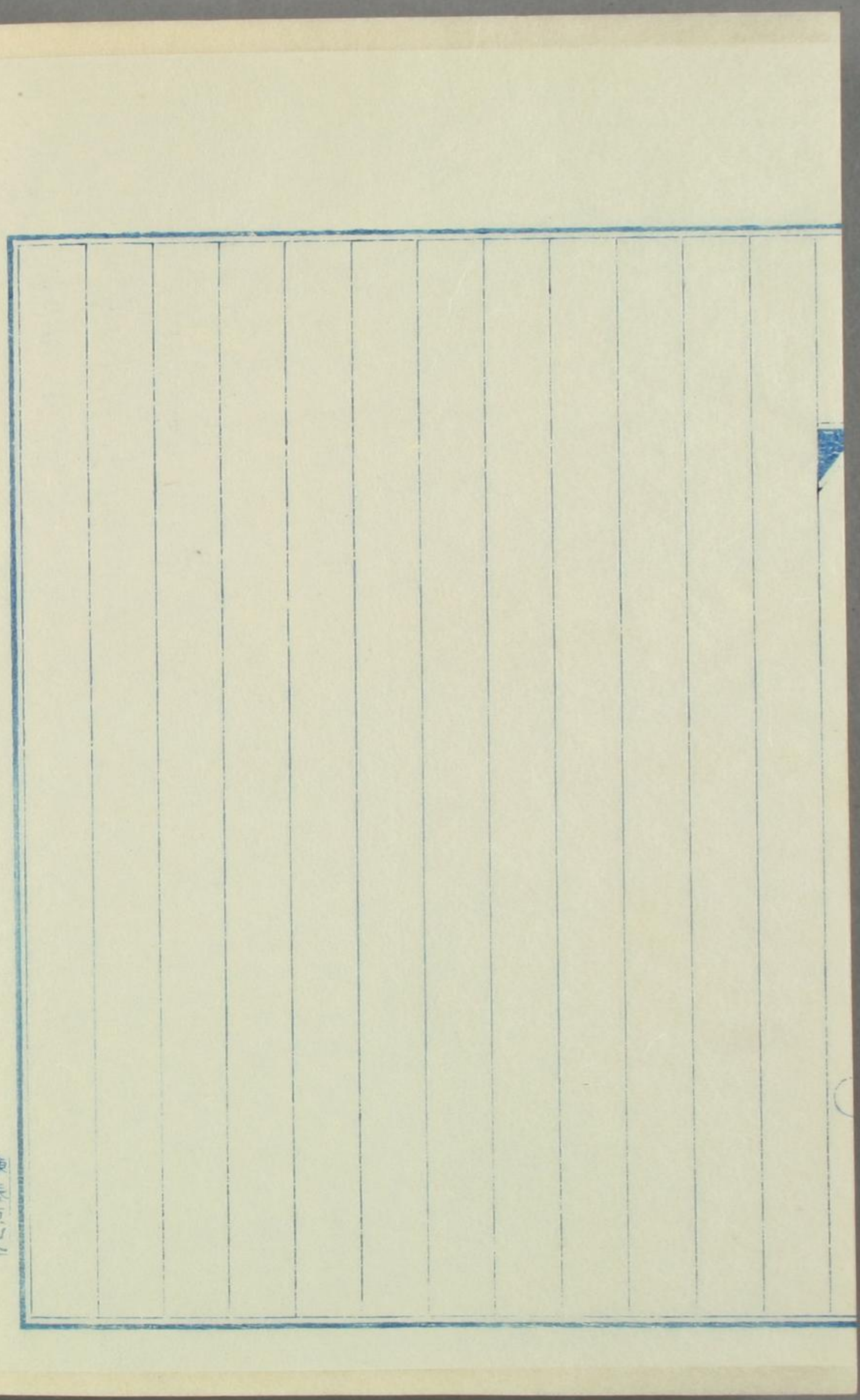
即、可、物、と、贈、る、主、五、十、四、の、家、用
と、と、内、子、と、海、子、二、時、と、し、と、所、と、し、偽
伴、と、同、方、刑、行、名、と、し、杖、成、と、し、集、と、し、配
本、し、束、と、し、黙、後、物、と、し、入、と、し、物、と、し、入、と、し、坊、と、し、
リ、七、十、貫、の、木、柴、利、と、し、坊、代、と、し、七、十、四、也
内、子、と、海、子、と、城、攻、河、内、房、房、次、の、と、し、物
と、贈、り、可、也

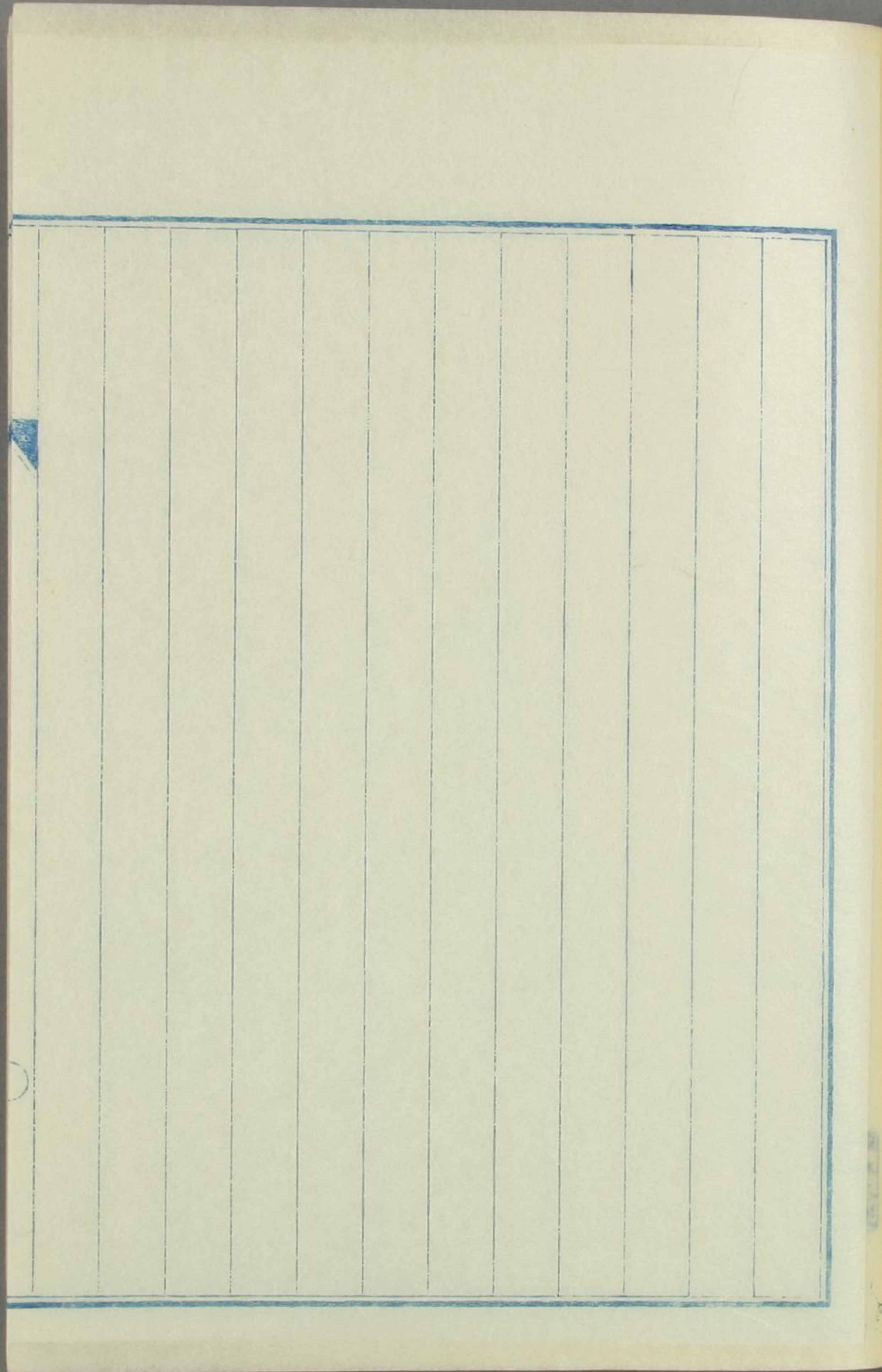
三十

明、早、朝、古、池、事、三、束、と、し、坊、と、し、山、の、幅
と、修、物、と、し、價、二、十、五、四、坊、内、美、大、坊、内、美、大
坊、内、美、大、坊、内、美、大、坊、内、美、大、坊、内、美、大

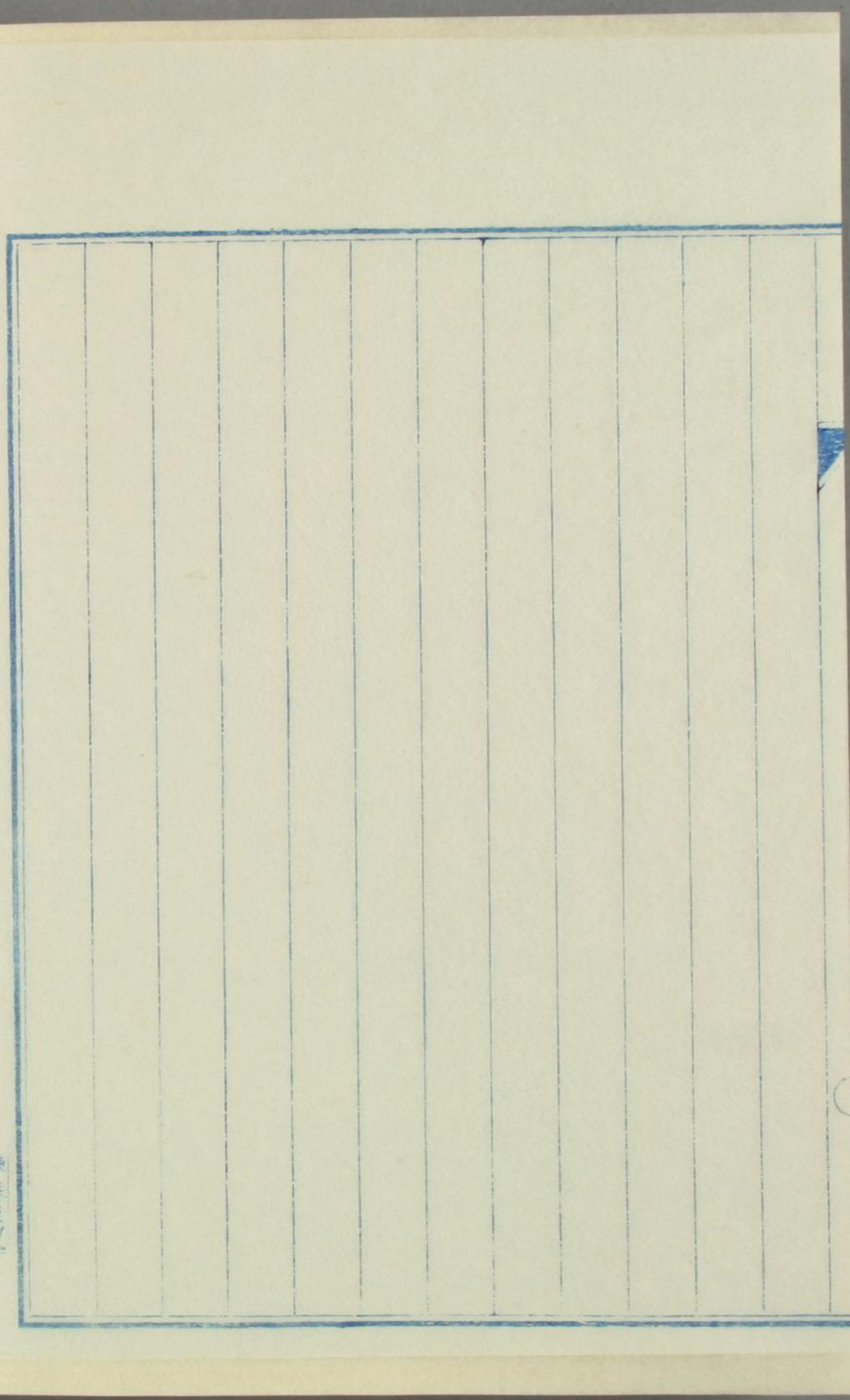


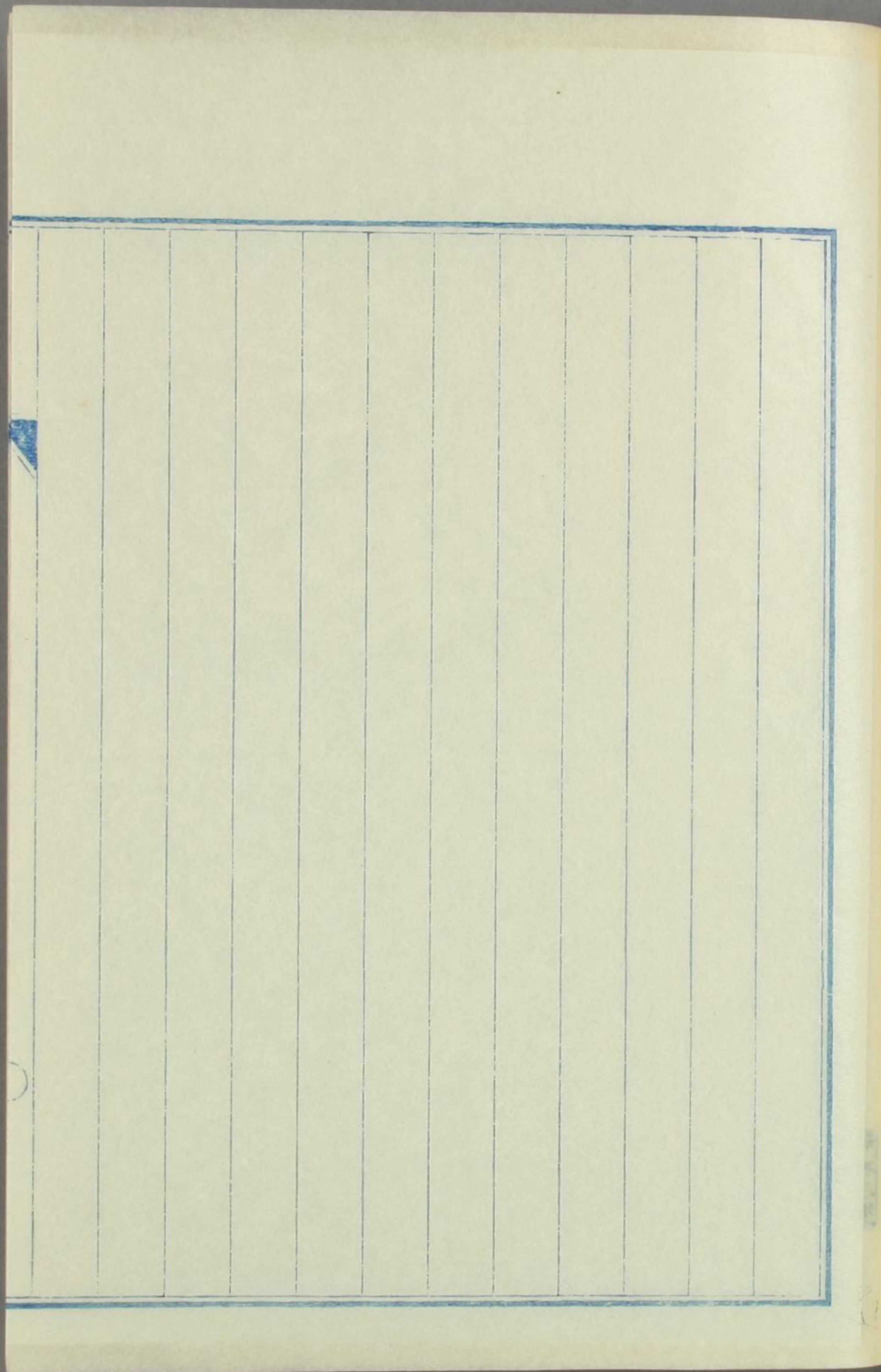
東
橋
石
製



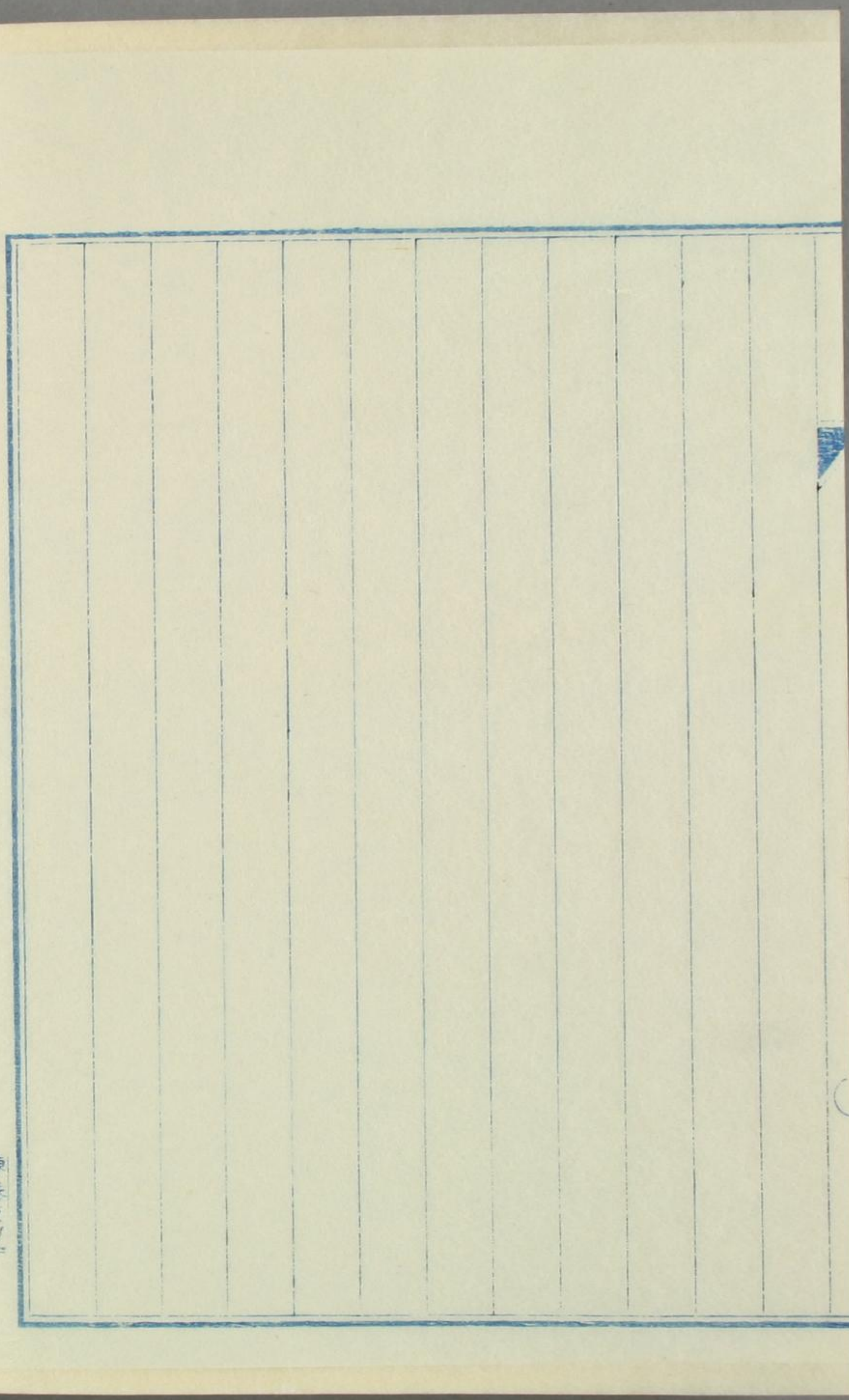


原
樣
印
製





東橋石製



大正六年日誌三卷の尾に書す

本年七亦暮る、毎年の日誌二冊を書きつゝ
例まゝの本年と三冊を成すあるべし
べし、本年と余の身事と主人の事と
生しつゝ就中大方と早稲田大の
紛擾也、事の原因と元帥の意向と
する嫉妬をせしむるを余も及ば
べし、余の三冊の現職を評し
大典紀念書中書す此の事も紛擾余
に對するの事ありしを記す、
田を三十年河輪什等關係上對
の余の爲に記す異とするは是

此の紛擾より大喧りの其日信地、意を
得たりし起り、其日天を離し、依
り、より多く、波瀾を擴大し、終に陰陰
より政權を暗に奪ひ、政徒を幫助
して早稲田を奪ひ、滅ぼさんとす。此
の紛擾より、おし金等と飽む、自主
し、或んと政徒の力する、依りて、彼
等、のね、暴を、一、概、の、概、を、此、を、之、を、
占領する、より、事、極、点、に、達、す、其、時、
大隈侯も、其、所、危、殆、に、近、し、其、時、の、
事、の、概、お、り、あ、る、事、を、六、月、に、
こゝろ、九、十、日、間、に、概、の、概、幹、部、と、
す。

東橋屋製

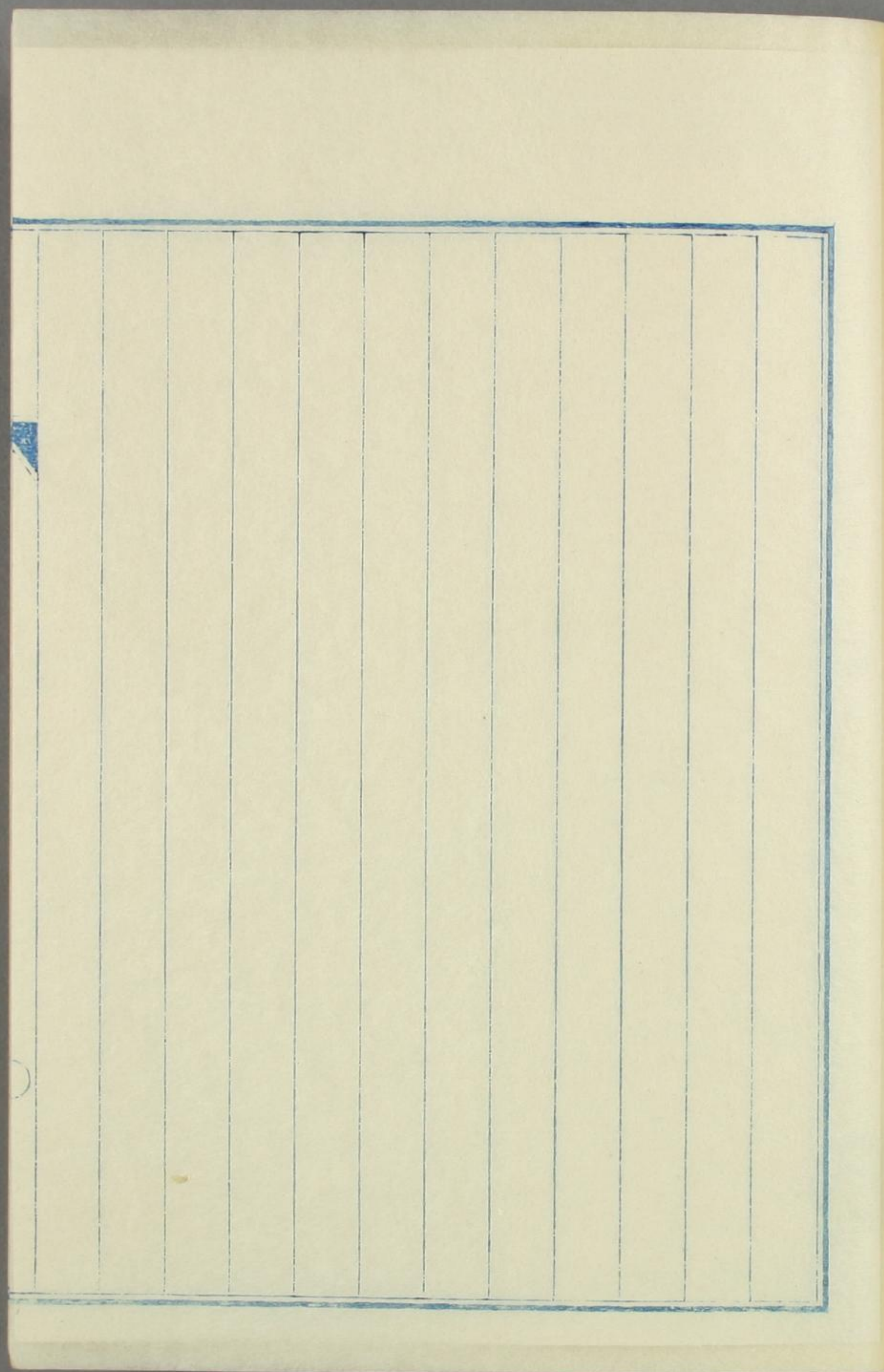
へて能力のあえ、其、時、終、に、幹、部
と、其、時、の、概、の、概、を、此、を、之、を、
なり、而、し、其、の、概、の、概、の、概、に
剩、す、其、の、概、の、概、の、概、の、概、
隈、侯、と、載、り、政、徒、の、海、固、ち、一、行、の、概、
了、其、主、の、概、の、概、の、概、の、概、
ハ、其、の、概、の、概、の、概、の、概、の、概、
待、せ、り、其、の、概、の、概、の、概、の、概、
未、得、り、其、の、概、の、概、の、概、の、概、
る、こ、の、概、の、概、の、概、の、概、の、概、
也、
此、の、概、の、概、の、概、の、概、の、概、

本年郷里の行方、活法を試み筆録せし免若くは自ら執筆せしもの一し
と是ら亦一時の感ずり成るもの活
法と連載の稿中語(活法三則)あり
此稿は概して連載の書め概三十三回
あり、且自家の経歴、関するもの多
活法の改定、亦、活法は亦在社中
の経歴活法あり、亦、活法は亦の活
法とて活法と筆録せし免若くは
余の自傳とも見らるべきもの也、此他書
の活法につき其頭書と筆録せし免し
より一冊あり、題して校録と名

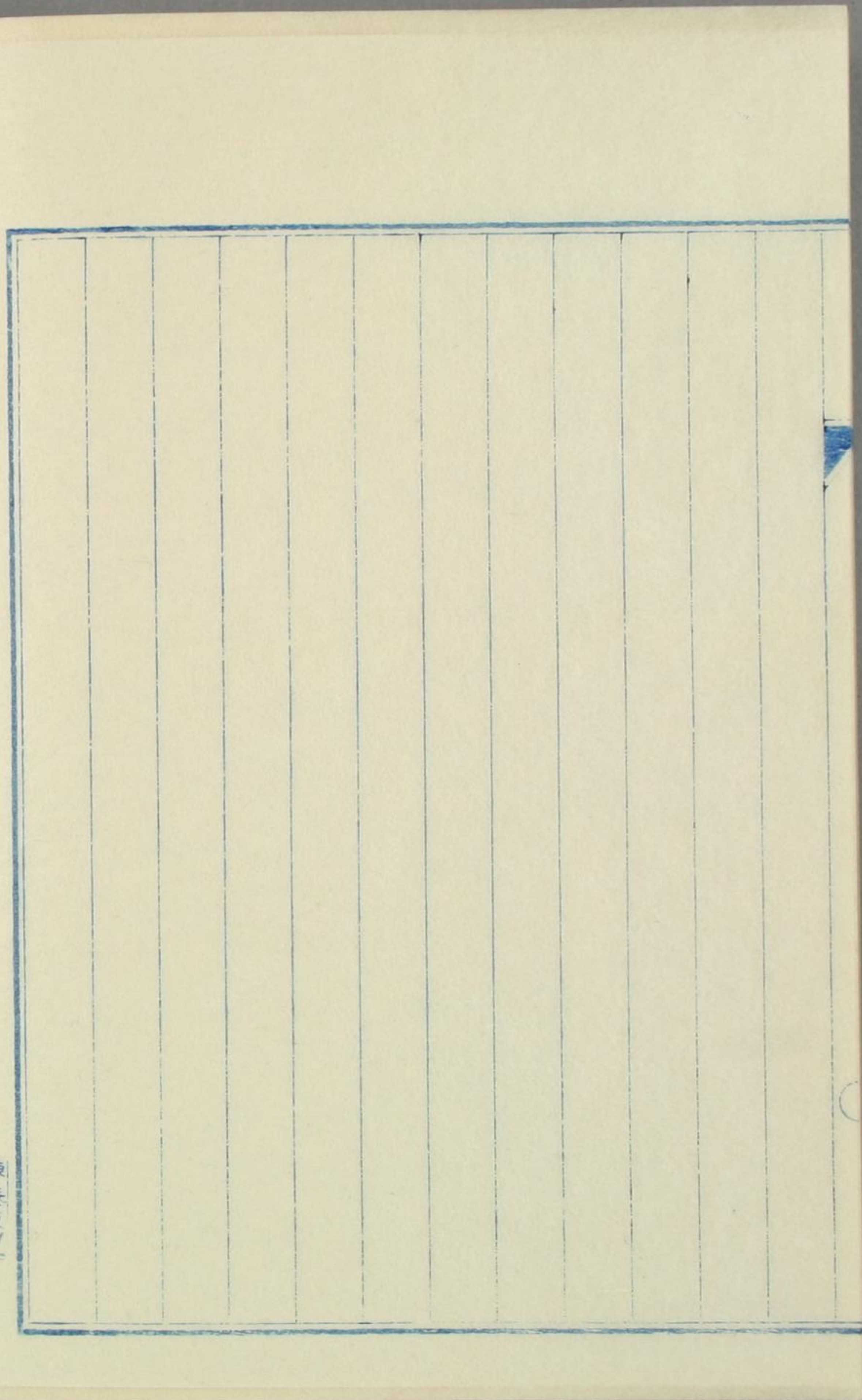
東林書院

本年身体極めて強健を覺、然るも、果其
の感得と別とせし夫と一日も病を
こころし、吃比左顔面の経筋漸く
く、右の左眼閉て、開く能はざる
也、但し視力に言はるる、随て故抑
活法を叙すが終て本年とせし、本年
を待ち終らるる活法を叙せし、
本年の一事は、活法三則の筆入、
す未だその果、亦、多く樹木を
害したるも、一因るんも、前任者の筆入
を急り、亦、一因るんも、前任者の筆入
く、活法を叙す、活法三則の筆入、

と初めを感ず、而もその滋味を捨つ能
はざるなり、其樂は其書の畫と出づるの如
く、日晷をたゞむの様に、土未其心まじり
河林の後の事なり
此年より家主人市崎徳次が病歿す、徳
次は徳次と在田す、(子)歿し、即ちを
なせり



東
橋
原
卷



以下

6丁

白紙

